

県内初 新聞広告 トリプル受賞 「わたしたちが、絶滅危惧種になるまえに」

～豊かな自然価値と保全の大切さを、沖縄県2紙と共同で企画広告展開。～

沖縄セルラー電話株式会社（本社：沖縄県那覇市、代表取締役社長：宮倉康彰、以下、沖縄セルラー）は、「広告電通賞審議会」主催の第77回 広告電通賞 九州地区広告賞（九州地区1位）、プリント広告部門 C新聞シリーズカテゴリ 銀賞（全国）に加えて、一般社団法人日本新聞協会主催の第44回新聞広告賞 広告主部門広告賞を受賞、3つの賞の同時受賞は県内初となります。

■受賞作品

新聞広告：生物多様性沖縄2紙マルチ新聞広告 「わたしたちが、絶滅危惧種になるまえに。」

掲載日：2023年9月24日

掲載紙：沖縄タイムス社、琉球新報社（五十音順）



（左）「海」をテーマに、原寸大で描かれたザトウクジラの目とエラブウミヘビ

（右）「陸」をテーマに、原寸大で描かれたヤンバルクイナとイリオモテヤマネコ

本広告は、沖縄セルラーと沖縄県の2紙（沖縄タイムス社・琉球新報社）が、豊かな自然の価値と保全の大切さを伝えるために、共同で企画し広告を展開しました。

沖縄タイムス社は「海」、琉球新報社は「陸」をテーマに絶滅危惧種を含む動植物の原寸大のイラストを掲載し、広告枠を生物の形に合わせ大胆に配置しました。メディアやSNSで大きな話題となり、普段新聞に触れない若年層にも訴求することができました。紙面の大きさを斬新なアイデアで活用し、読者の好奇心をかきたてながら問題意識を高め、沖縄県の生物多様性を伝えた広告活動として高く評価されました。

沖縄県は多くの希少生物が生息しており、生物多様性のホットスポットとして世界的にも注目され、また、企業の成長、経済発展の根幹には自然があり、持続可能な経済活動を行ううえで自

然資本が非常に重要とされています。当社は沖縄県で事業を行う企業として、沖縄の豊かな自然を後世へ残していく責務があると考えており、これまでに「おきなわ自然保護プロジェクト^(※1)」を中心に、様々な自然環境保全にと取り組んでまいりました。

沖縄セルラーは、継続的に、自然資本への影響と依存、リスクの評価を行い事業展開することで、「ネイチャー・ポジティブ^(※2)」へ貢献し、ステークホルダーの皆様とともに社会の持続的成長、企業価値の向上に取り組んでまいります。

(※1)おきなわ自然保護プロジェクト

沖縄の自然を守り、未来に繋げていくことを目的とし、2021年に沖縄セルラーの社会貢献活動として始動したプロジェクト。

(※2)「ネイチャー・ポジティブ」とは、自然生態系の損失を食い止め、回復させていくこと。

参考)

■ 沖縄セルラーの生物多様性に関する主な取り組み

- ・おきなわ自然保護プロジェクト開始(2021年10月12日発表)
- ・おきなわ自然保護プロジェクト第2弾、マングース画像判別システムの構築(2022年3月30日発表)
- ・TNFD フォーラムへ加入
- ・ネイチャー・ポジティブおきなわ推進に向けた連携協定締結(2023年7月25日発表)
- ・30by30 (サーティ・バイ・サーティ) アライアンス加盟
- ・AIによる生物情報可視化アプリ「Biome」とStarlinkを活用し外来種調査を実施(2023年9月7日発表)
- ・新聞広告「わたしたちが、絶滅危惧種になる前に。」コピーとともに、琉球新報・沖縄タイムス3社共同で生物多様性の保全や環境保護の重要性を訴求。(2023年9月24日掲載)

■ 第77回広告電通賞 受賞一覧

■ 第44回新聞広告賞 受賞一覧

■ 新聞広告「わたしたちが絶滅危惧種になる前に。」過去の受賞一覧

- ・第42回 沖縄広告協会「広告賞」総合グランプリ (2024年3月発表)
- ・第3回 鈴木三郎助全広連地域広告大賞 プリント部門賞 (2024年4月発表)

以上

本件に関するお問い合わせ
沖縄セルラー電話株式会社 サステナビリティ経営推進部
島袋・伊志嶺 TEL : 098-951-0639